

あすのば全国集会2024
「あすのば6千人調査」からの声 ～居場所～

①こどもの虐待やいじめに対してのシグナルを先生が感知できていない・学校に配置される専門職(例:SSW)のなり手がいない

「あすのぼ6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「母がシングルマザーで精神障害者となり自殺しようとしたこともあり辛い日がたくさんありました。妹のごはん作りや洗濯などの家事もしました。高校時代は友達のトラブルに巻き込まれメンタルが落ち、学校にいけなくなり、親に送ってもらったり2年生までの単位は取れて、母が学資保険をかけてくれたので、市立の通信高校に行くことが出来て高校は卒業できました。行きたい専門学校もあったけどお金がないのがわかってたので我慢しました。ご飯も一日2食か1食のときもありました。今はアルバイトをしています。18から成人扱いとなりお金には困っています。」

「先生が無視したりした学校いかない」

「学校に行ってもべんきょうがわからなくて、休んでもおこられるばかりでいやになった。勉強をおしえてくれる場所に行きたい」

【課題】こどもの虐待やいじめに対してのシグナルを先生が感知できていない・学校に配置される専門職(例:SSW)のなり手がいない

○教職員の**負担軽減**

- 部活動を担当する人は教員ではなく、定年退職した人や地域住民、大学生等が有償ボランティアとして担当する

○教員免許の取得過程で**福祉的な視点**を学ぶ

- 子どもの近くにいる教職員が児童虐待やいじめ、特別支援教育について学ぶ機会を増やす

○SSWの賃金向上に加えて職業的地位を高める

- 教員と同様に、**SSWも公職化**する
- 職業的地位を高めるために、他教職員との関わり方や学校内での立ち位置について**制度的に明記**する
- **SSW同士の交流**を増やす

②身体的・精神的持病のある人達が能力を発揮できる労働環境 (アルバイト・パート)が整備されていない

「あすのば6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「うちは親が離婚して、今は母と暮らしている。僕を含め兄弟みんな発達障害を持っているため、今までも母には色々負担をかけていると思う。それでも僕たちの事を一番に考えてくれている。たまに欲しい物が買えなかったりで母に文句を言ったりもする。あとになってごめんって思うけど、母が毎日頭を悩ませてやりくりしてるのも知ってるので、母をもう少し楽にさせてあげるためにも、国の上の人達だけではなく下位層の子ども達の意見ももっと聞いて欲しいと思う。」

「(父親が職場で亡くなったのだが、労災が認められなかったことを受けて)お母さんはヘルニアが悪いのに仕事を探しに行きますが、採用となると身元保証人が用意できません。身元保証人代行業は危険で使えません。助けてください。色々凄まじすぎて息が苦しくなります。人間全てが嫌いになりました。」

【課題】身体的・精神的持病のある人達が能力を発揮できる労働環境(アルバイト・パート)が整備されていない

現状

障害者差別解消法: 障害を理由とする差別の全面的な禁止

解決策

- 就労継続支援以外にもニーズに応じた**フォーマルな働き口**をつくる・増やす
- 企業内で障害を持つ人が**自分の持っている強みを発揮できる働き方**を模索する
 - (例) ADHDの強み(あくまでも例。個人差は大きい)
 - 洞察力、創造的思考力、問題解決力が高いなど
- グループホーム・就労継続支援A型B型・デイ併設を増やす
就労支援の場と生活支援の場を一致させることで、支援の連携を図る

③お金がかからずに子どもが楽しむことができる居場所が少ない

「あすのぼ6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「交通費がない。友人や、学校行事で集まる場所への移動など。歩いてかえる時もあった。」

「中学生のとき、無料学習塾に通っていたが、ボランティアの人が教えているので、正直、普通の塾とは全然違った。」

「私は両親が離婚して母子家庭で育ちました。母親は仕事で忙しく、中々会話をする時間が無かったうえ、精神的に不安定な部分があり、家が安心できる場所ではなかったと感じていました。」

「親の仕事がコロナでなくなった時から未だに家計は苦しそうなので、自分の浪人生活が負担にならないように参考書も買わずに図書館や家で受験勉強をしています。ですが、なかなか自由に勉強できる場所がないのでこれから先、自分のような人のためにももっとフリースペースを増やしていただきたいです。」

【課題】お金がかからずに子どもが楽しむことができる居場所が少ない

○居場所それぞれに**定義**をつけて多様な子ども・若者たちが利用しやすい居場所を増やす

- それぞれの居場所に”利用できる年齢”や”主な活動内容”などを定義づける
- 居場所に**繋がりがづらい層**(高校中退・卒業後の青年)や**潜在化しやすいニーズ**(性的マイノリティ等)を抱える子どもを対象とした居場所支援

○居場所支援の地域格差をなくし**アクセス性を向上**させる

- 保護者や子どもが居場所支援情報につながる環境づくり
- 居場所をもつきっかけとしての**アウトリーチ**を行う

○子どもが置かれている**状況に応じた居場所**の整備

- 大人が守ってくれる場としての居場所とお金を掛けずに自由に遊べる場としての居場所の区別をする

④ひとり親の雇用環境改善(特に非正規雇用)及び、仕事と育児の両立支援について

「私に苦勞をかけないように自分を犠牲にする父を見てつらい。自分のご飯を食べなくても私にはちゃんと用意してくれるのを見たくない。」

「離婚後、お金もそうだけど、父親がいなくなったのが寂しい。母親が朝から晩まで働いていて(母親と)話す時間も減った。大学へ進学したいが、今の状況で進学したいとはいえない。」

「母はいつも疲れていて、私たちに満足な生活をさせようと頑張ってくれているけど、給料が上がらず苦しいと言っています。」

「あすのぼ6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

提案する解決策

○雇用環境の改善

- 正規雇用の**働き方**（早退保障制度、フレックスタイム制等）を拡充する
- 非正規雇用の**賃金を向上**させる
- 非正規雇用においても育児休暇などの**福利厚生制度を充実**させる

○預かり先の充実

- 安い料金で子どもを預けることができる託児所を都内だけでなく全国に普及させる
- 当日でも預かり先が見つかるように、誰もが預かり先のなりてになれるような支援や制度をつくる

⑤親子関係を仲介する存在が必要、親への教育ではなく負担軽減に力を入れるべき

「あすのば6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「発達の過程で、本来両親から学習することを学ぶ時間がすくなかったため、他の家庭の子どもとのコミュニケーションが難しかったと記憶しています。」

「奨学金を借りるのに保護者の承認が必要なので、自分だけじゃ借りられない。なので保護者との関係が悪くなると、大学を辞めなければいけないのかと不安になる。」

「祖母たちは宗教団体に入っています。母だけ脱退したことにより、親が祖母たちに捨てられてしまいました。母は宗教のせいで辛い思いをして精神障害を患ってしまいました。精神障がいがあっても、僕には優しい母です。頑張り屋で働きすぎて、過去に何度も過労で緊急搬送されました。いい大学に進学し、たくさん勉強をして、給料の良い会社に就職し、早く母に楽をさせてあげたいです。」

【課題】親子関係を仲介する存在が必要、親への教育ではなく負担軽減に力を入れるべき

現状

相談支援の限界 訪問支援の対象の限界

解決策

○悩みを相談できる場づくり

・親が子育てについて相談、子どもが親との関わり方を家庭から離れて相談できる場。

○訪問支援の拡大

・訪問支援の機会と対象を増やす。

⑥子どもたちが自身のキャリアを考える時間や場がない

「あすのば6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「来年3年生になり大学への進学を希望しているが、家計が不安定なので進学できるか心配。両親が専門学校卒業で大学進学について相談できる身近な人がいない。」

「理解してくれる人が母しかいない。友達もいない。」

「親を見てると大人は大変としか思えない。」

「今、進路の事で色々悩んでます 何処の高校へ行くか分からないです」

【課題】子どもたちが自身のキャリアを考える時間や場がない

- 人生の中で多様な経験をしてきた人の話を聞き相談できる機会を増やす
 - 現在の親世代、シルバー世代、5～6歳上の人などに**就職や結婚**などの良い点・大変な点を聞くことができる機会をつくる
 - 学校の授業**カリキュラムの一環**として結婚や子育て、就職について現実的な課題やメリットを学び考える時間を設けるべき
- 高齢者施設と学童**の併設を進める
 - 高齢者の認知症予防に加え、歴史の継承を行うために高齢者と児童が日常的に触れ合うことができる環境を整備すべき

⑦相談支援の質や量が十分ではない

「あすのぼ6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「当時居住していたのが地方の田舎町だったのも災いし、人との交流が希薄になっていたと感じています。金銭的な負担がないオンライン上での相談やカウンセリング等がより身近になれば今困っている子どもたちを救う一助になるのではないかと考えます。」

【課題】相談支援の質や量が十分ではない

○相談窓口の一元化

- ・自身が置かれている状況に合わせて**民間の支援団体や公的支援に繋がってくれる**窓口が必要
- ・得られる支援情報を一元化したサイトは存在するが、それらのサイトにアクセスするには決まったキーワードを入れて検索する必要がある
- ・**労力の分散にならない**よう申請でき、**得られる支援を的確に教えてくれる**窓口が必要

○地方では相談窓口や支援制度の少なさが課題となっている

- ・**オンライン支援**の質、量の向上が必要
- ・繋がりをを持った**支援員が各地域に分散**している状態を目指す

参考文献

- ・ 文部科学省が教員の負担軽減といじめの改善を目的に既存の施策

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2019/04/25/1412993_25_1.pdf

- ・ [教員勤務実態調査（令和4年度）【速報値】について（概要）（mext.go.jp）](#)

・ [令和3年度産業経済研究委託費 - イノベーション創出加速のためのデジタル分野における「ニューロダイバーシティ」の取組可能性に関する調査](#)

- ・ 重度の知的障がいを抱えた息子のため豆腐店を創業 <https://bunshun.jp/articles/-/56495>

- ・ 居場所の現状と課題、及び提言

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo_ibasho_iinkai/dai4/siryou2-3.pdf